

田崎設備が選ばれる3つの理由

理由
01



危険物倉庫の空調の
経験が豊富

理由
02



消防署や労基署との事前協議や
書類申請を
円滑に行える多数の実績

理由
03



提案から設計積算・
現場管理試運転まで
一貫して請け負うことが可能

よくあるご質問

Q

打合せ設計積算のために
何をを用意すればいいですか？

A

ご用意していただきたいのは、危険物倉庫の平面図・立面図・配置図(保有空地がわかる図面)などの図面と、空調の設計条件や取り扱う危険物の名称と量などをご提示いただけます。

Q

打ち合わせや見積もりは
無料ですか？

A

無料です。安心してご相談ください。

Q

対応できるエリアはどこ
ですか？

A

原則として関東全域と静岡県、福島県となります。それ以外のエリアは場所によっては対応可能な地域があります。ご相談ください。

お問い合わせはコチラまで

TASAKI 田崎設備株式会社

〒321-4364 栃木県真岡市長田1丁目2-9
☎0285-80-2040

ホームページはQRコード
からもご覧いただけます
<https://www.tasaki-s.co.jp>



危険物 貯蔵所 空調システム

& 製造所



こんなお悩みございませんか？

- 30℃以下で保管したい
- 一定の温度(25℃±3℃)で一年中保管したい
- 製造工程と保管庫を同じ場所で兼ねたい

例えば

そのお悩み、田崎設備にお任せください！

危険物貯蔵所
独立平屋建の場合

- ① 危険物の指定なし
- ② 床面積1,000m²以下、軒高6m未満
- ③ 窓、出入口は防火設備
- ④ 保有空地10m以上(指定数量の制限なし、耐火構造であること)
- ⑤ 空調機は外部設置(壁貫通のダクトは防火ダンパー設置)、強制換気設備必須

※上記以外の立地条件の場合はご相談ください。



01

強制排気ファン(換気回数3回/h)
消防署も納得のバランスの良い排
気設備を設計



02

空調室内機 通常は左側の2台が
稼働、外気温38℃以上又は故障
時のリザーブ用として1台が予備



03

倉庫内のダクト吹き出し口 室
内の温度ムラが発生しない空気
の流れを実現

TASAKI 田崎設備株式会社

危険物を貯蔵可能な空調管理システムの導入で 新規事業立ち上げに成功!

取扱いの難しい危険物の貯蔵も、空調管理システム導入の豊富な経験を持つ田崎設備ならトータルでサポートいたします。

今回は弊社の『危険物倉庫 空調システム』を導入していただきました、茨城県古河市の星田商運株式会社の星田社長にお話を伺いました。危険物倉庫とは消防法や建築基準法などの法律によって「危険物」に指定された物質を保管する施設を指します。星田社長からは①外気温が40℃以上でも倉庫内を30℃以下に管理したい、②雷や突然の災害で停電してもすぐに復旧できるようにしたい、という2点が製品を預けていただけるエンドユーザーからの条件とお聞きして設計施工をいたしました。借主のニーズにとことん応えることで順調に新規事業を展開されている星田社長にお話を伺いました。

田崎:ホームページを拝見しましたがとてもインパクトがありました。福利厚生や人材育成、SDGsにも積極的に取り組まれている印象を受けましたが、会社の在り方、社員への思いをお聞かせください。

星田:精力的に売上を伸ばすというより、社内環境や給与など働きやすい環境を重要視して会社作りを行っています。

どうしても入れ替わりの激しい業界ですので、出来る限り社員一人ひとりを大切にしながら社員全員に利益を還元できる仕組みづくりを目指しております。また、挨拶や制服の着こなし等の基本的なマナーを徹底することでお客様に対しても品質を保っていけると考えております。それは運送業も倉庫業も同じでしょう。

田崎:若い方の求人で工夫されていることはありますか？

星田:弊社ではトラックを79台所有しておりますが、そのうち4台をセノプロトラック株式会社様にデザインしていただいています。この業界では有名な会社で、そのデザイントラックを見て「自分も乗りたい」と志望してくれる若手が多いです

ね。そういう方はトラックを綺麗に扱いますし、綺麗に扱ってくれる方は適当な仕事もしない傾向があるのでそういう面では質の高い人材を雇用するための工夫と言えますね。

もちろん全員をデザイントラックに乗せてあげることはできないので、リーダーを経て会社に貢献してくれる方が優先的に乗れるように配慮してはいます。

田崎:まだまだ危険物倉庫の需要はあると思いますが、倉庫業をさらに拡大する計画はありますか？

星田:そうですね、計画はあります。危険物倉庫に関しては数が圧倒的に少ないのでそ

れが付加価値になっているとも思いますし、危険物倉庫の建設や運用に関しては関西の方が盛んだと聞いていて常務に1度視察に行ってもらったことがあるので、リスク面も考えながら運営していきたいと考えています。

田崎:最後に、今後の展望をお聞かせください。

星田:はい。このまま地元で根付いた地域密着型の経営をしていきたいという考えは変わりませんが、これからはもっとブランディングを行っていきたくと思っています。星田商運という会社のブランディングで、より従業員たちの生活が豊かになるような会社作りを行っていくことが目標です。

また、様々なニーズが増えていく中で共に成長していけるような同業者を増やしていけたらとも考えています。

弊社を経て独立した会社が一社あるのですが、元々運送業をやりたいと言っていた方でその独立の手助けをしました。燃料費の高騰や厳しい競争

が続く中で、一方的な援助ではなく同業者同士が助け合い高め合うような相互関係の構築に重点を置いています。同じように会社を立ち上げたい方や運送・倉庫業に携わりたいという方たちを応援していくような環境を作っていければと思っています。

エンドユーザーが安心して預けられる危険物貯蔵庫を提供したい、とのご要望にお応えするために夏の猛暑(外気温40℃)でも空調機の故障発生時でも一定の室温(26℃)が保てる空調システムを設計提案し、ご採用いただきました。今回のインタビューを通してたくさんの気付きや学びをいただきました。ありがとうございました。これからも田崎設備は幅広いお客様のニーズに対応いたします。



田崎設備株式会社

代表取締役

田崎 利也

たさき としや

1963年生まれ。大学卒業後、電気制御設備会社で経験を積み、1988年に田崎設備入社。1998年より代表取締役に就任。2014年より局所排気装置、2016年より危険物倉庫の空調に挑戦。趣味は草野球とゴルフ。



株式会社星田商運

代表取締役社長

星田 哲生

ほしだ てつお

1982年生まれ。茨城県古河市出身。東和大学付属昌平高等学校卒業後、建設会社に就職。その後運送会社に転職しドライバーとして勤務。2012年に星田商運を創業。建築資材・危険物などの一般貨物輸送および、茨城県古河市を中心に倉庫業を展開。趣味は子供のサッカー観戦。



ドライブチャートはAIを駆使したドラレコが常に運転を解析し、ドライバーの事故防止と業務効率化をはかっている。



業界で有名なセノプロトラック社製のデザイントラックを見てドライバーを志望してくる若手も多い。